

# 弥陀ヶ原の火山活動解説資料(平成 27 年 10 月)

気象庁地震火山部  
火山監視・情報センター

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過しています。

立山地獄谷では以前から熱活動が活発でしたが、2012 年 6 月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されており、今後の火山活動の推移に注意してください。また、この付近では火山ガスに注意してください。

噴火予報(活火山であることに留意)の予報事項に変更はありません。

## 活動概況

- 地震や微動の発生状況(図 1)

弥陀ヶ原近傍を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は低調に経過しています。火山性微動は観測されていません。

- 噴気・地熱等の状況(図 3 ~ 図 6)

16 ~ 20 日にかけて地獄谷噴気地帯の現地調査を実施しました。地獄谷周辺では、引き続き活発な噴気活動が認められました。

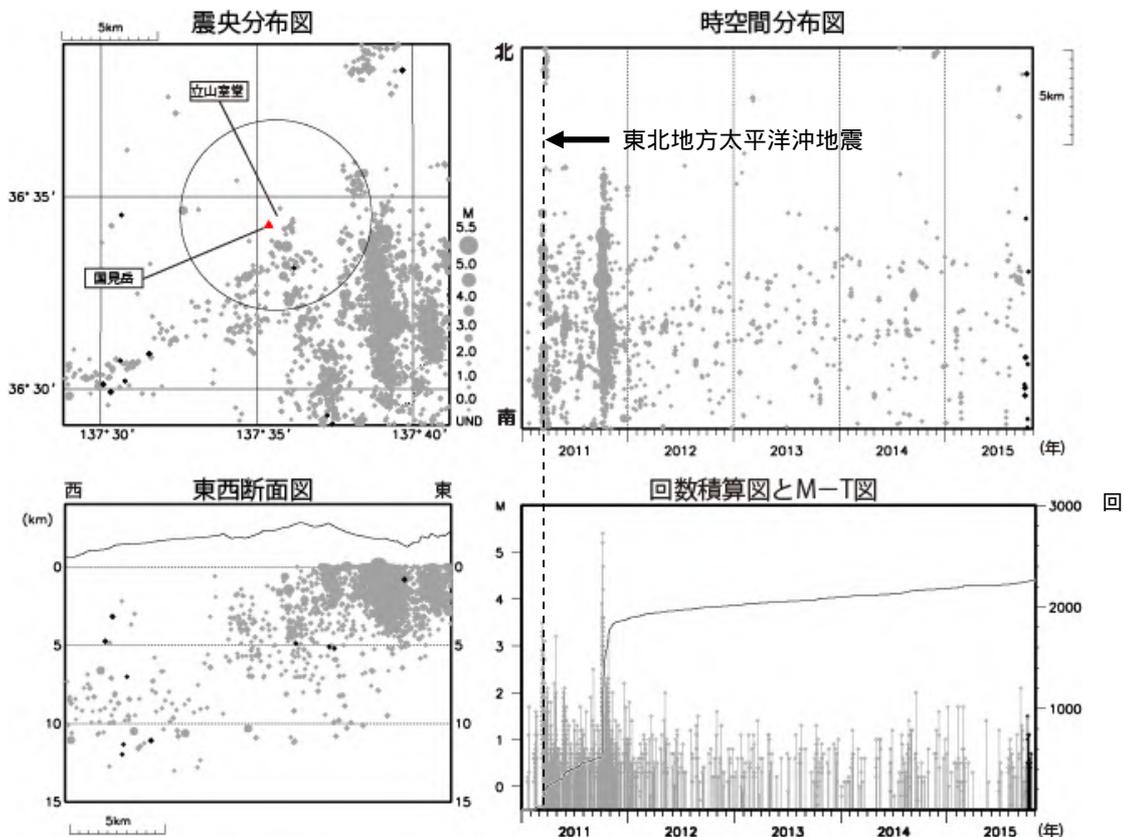


図 1 弥陀ヶ原 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動(2011 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 10 月 31 日)

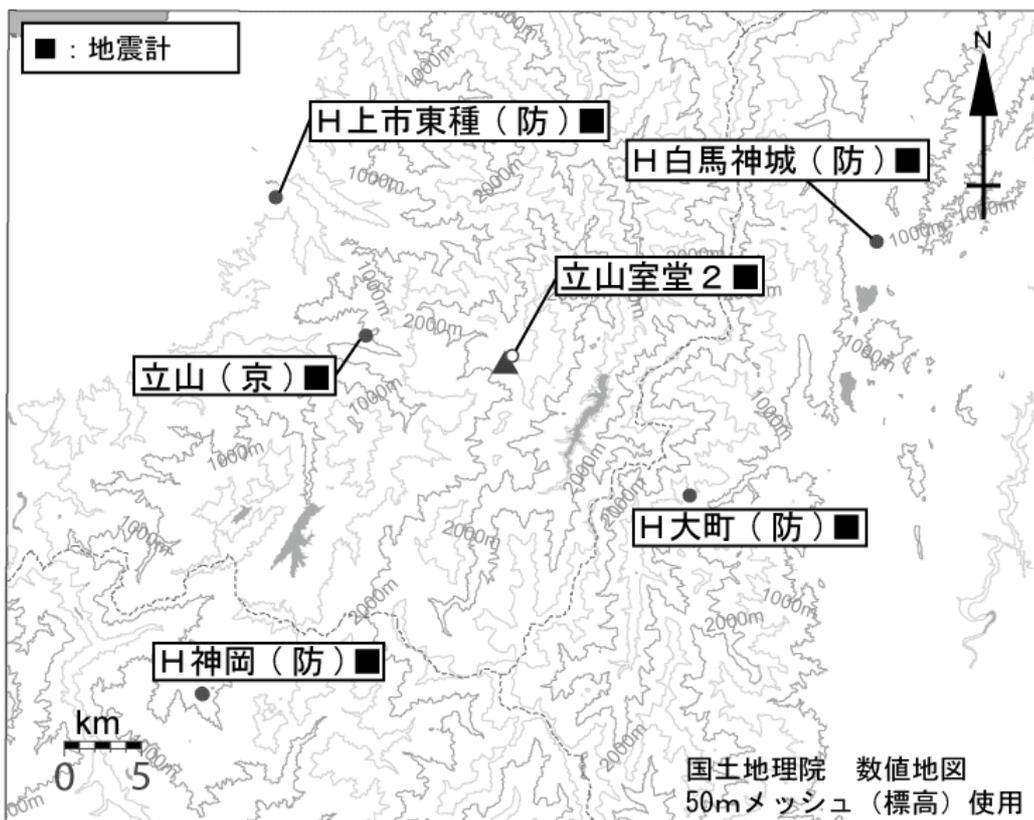
: 2011 年 1 月 1 日 ~ 2015 年 9 月 30 日

: 2015 年 10 月 1 日 ~ 10 月 31 日

- 震央分布図内の円は、立山室堂に設置した地震計(立山室堂 2)で地震回数を計数している S-P 時間 1 秒以内となるおおよその範囲を示します。
- M(マグニチュード)は地震の規模を表します。
- 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。
- 弥陀ヶ原近傍の地震活動は、低調に経過しています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧できます。次回の火山活動解説資料(平成 27 年 11 月分)は平成 27 年 12 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、京都大学、名古屋大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図(タイル)』『数値地図 50mメッシュ(標高)』『数値地図 25000(行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号:平 26 情使、第 578 号)。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (防): 防災科学技術研究所、(京): 京都大学防災研究所

図2 弥陀ヶ原 観測点配置図



図3 弥陀ヶ原 地獄谷地図

(図4、図5の位置及び図6の撮影位置・方向を示します)



図4 弥陀ヶ原 地獄谷紺屋橋南東斜面の状況

- ・ 撮影位置は図3を参照 左側が前回調査(2014年9月)、右側が今回調査(2015年10月16~20日)
- ・ 上段は全景、下段は上段赤丸内の噴気孔(矢印)の様子



図5 弥陀ヶ原 地獄谷遊歩道の状況

- ・ 撮影位置は図3を参照 左側が前回調査2013年10月1日、右側が今回調査(2015年10月16~20日)
- ・ 遊歩道上の陥没した所(赤丸)からは、2013年10月、2014年9月に引き続き噴気が認められましたが、2013年10月に確認された新鮮な硫黄昇華物(白丸)は、2014年9月、今回調査ともに認められませんでした。

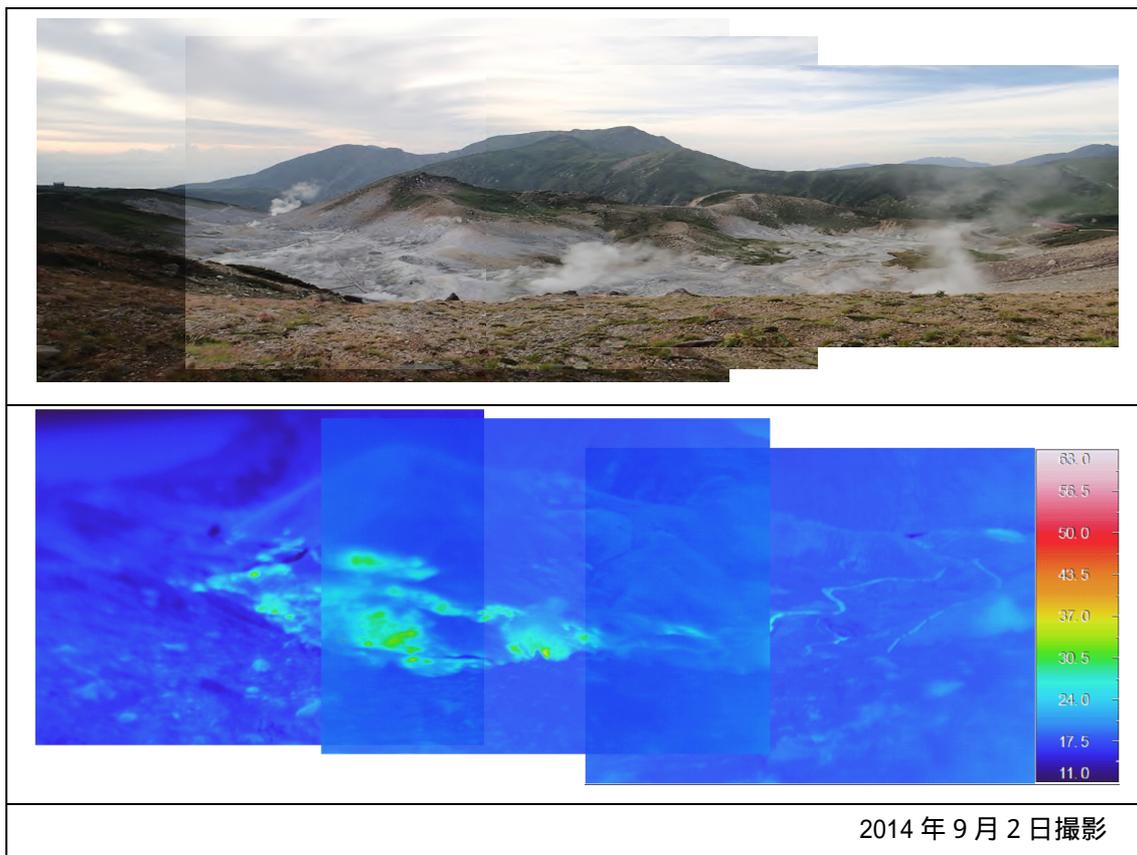
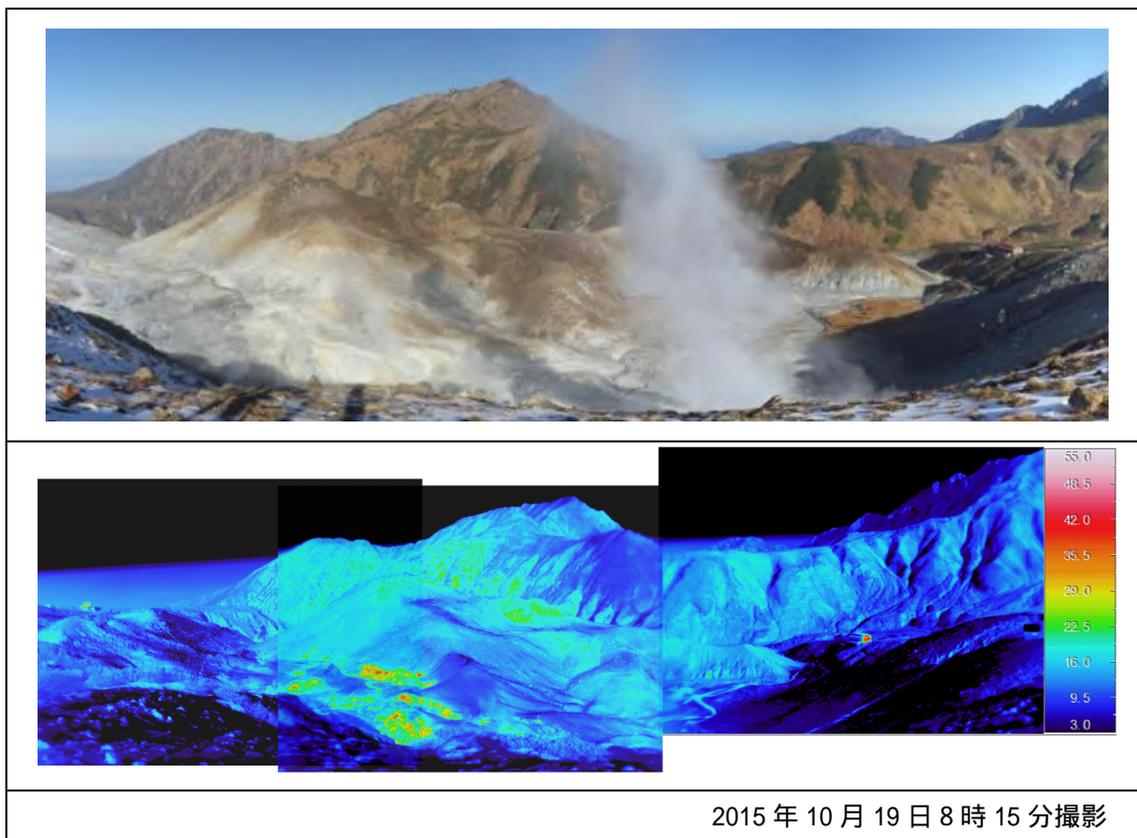


図6 弥陀ヶ原 地獄谷噴気地帯の地表面温度分布

- ・撮影位置は図3を参照
- ・局地的な噴気孔や硫黄物昇華の状況の変化は見られましたが、前回(2014年9月)と今回(2015年10月)の比較では、高温域の分布に特段の変化は見られませんでした。